



学校だより

はと広場

北小 Revival～ありがとう 75年 100年に向かってスタート

2月号

令和4年2月1日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

和気～まずは聞いてみる～

校長 三村 悟

今日から2月。暦の上では春の訪れはもうすぐですが、まだまだ寒さへの対策は欠かせません。そしてコロナ対策も。1月後半はオミクロン株の急拡大により全国で学級閉鎖が相次ぎました。本校でも本日までに4学級が閉鎖となり、保護者・地域の皆様には御心配をおかけしております。先週末から、徐々に閉鎖を解除しておりますが、今後も臨時時間割のもと慎重に教育活動を進めてまいります。御理解御協力をお願い申し上げます。

さて、2月11日は建国記念の日です。現在世界にある約200の国の中で、建国に関する神話を持つ国は数少ないそうです。「古事記」や「日本書紀」という物語をもつ国に生まれたことを誇りに思います。我が国の長い歴史を振り返ると、コロナウィルスのような疫病に苦しめられたことは何度もあったようです。有名な奈良東大寺の大仏も、当時流行した天然痘の被害を食い止めるためにという願いもあって建立されたと聞きます。

今は寺院としても観光名所としても有名で、その大きさや荘厳さに目を奪われますが、建立に込められた当時の人々の目に見えない願いも感じ取りたいものだと思います。

翻って、現在我々が直面しているこの困難への対応も、「あんなに大変なことも、私たちの先祖は力を合わせて乗り越えてきたのだ」と、未来の日本人に勇気を与えるものになることを願います。そしてそのような行動をとりたいと自分に言い聞かせています。

そのためには何が大切なのか、児童の様子から学んだことを二つ紹介します。

まず一つ目は、心のつながりです。自習監督に入ったクラスでは、4名がオンラインで授業に参加していました。授業が始まる前に女の子がパソコンに近づいてきて「校長先生、オンラインさんに話しかけてもいいですか」と尋ねました。「どうして」と聞くと、クラスの係活動でアンケートを取っているのだけれど、オンライン授業で学校に来られない友達の考えも聞きたいからということでした。コロナ対応については、各家庭で様々な状況や考えがあり、登校するか自宅で待機するかの判断は分かります。判断は違っても、気持ちはつながっていたいという願いを感じて、とても嬉しくなりました。

二つ目は、健気さです。学級閉鎖明けのクラスを訪れ、廊下で出会った児童に「元気ですか」と声を掛けると「はい、元気です。校長先生も元気ですか」という言葉が返ってきました。登校できない不安もあったでしょうに、私のことまでも気遣ってくれる優しさが心に響きました。

日本は、聖徳太子の十七条の憲法に示された「和」の心を大切にしてきました。コロナ禍と言われる今だからこそ、和気を失わず、心のつながりと健気な心を育てていきます。そのためには、自分と異なる意見に出会ってもすぐに否定せず、「どうしてそう思うの？」とまずは聞いてみることを大切にしていきたいと思います。



東昇降口前に

ウメが咲き始めました